

「アリとキリギリス」

イソップ童話「アリとキリギリス」という有名な話がある。一般的に読まれている「アリとキリギリス」の話は次の通り。「夏の間、アリたちは冬の食料を蓄えるために働き続け、キリギリスはヴァイオリンを弾き、歌を歌って過ごす。やがて冬が来て、キリギリスは食べ物を探すが見つからず、最後にアリたちに乞い、食べ物を分けてもらおうとする。アリは食べ物を恵み、『私は、夏にせっせと働いていた時、あなたに笑われたアリです。あなたは遊び呆けて何のそなえもしなかったから、こうなったのですよ』とキリギリスに告げ、それを機にキリギリスは心を入れ替えて働くようになる」。アリの勤勉さと計画性、そしてキリギリスに食べ物を与えた優しさが読み取れる内容になっている。教育的な見地から見れば、堅実な生き方をすることが大切だと、アリとキリギリスを使って伝えている。

でも、この話にはあと二通りのストーリーがあるという。一つは「キリギリスが『食料を分けてほしい』とアリの家を訪ねると、アリは『夏は歌って過ごしていたのだから、冬は踊って過ごせばいいんじゃない？』と言い放ち、扉を閉めて追い返してしまう。そしてキリギリスは、そのままアリの家の前で凍え死んでしまう」という残酷なストーリー。幼い子どもに話すのはどうかと思ってしまうが、目の前の楽しさに溺れ、先のことを考えないと、後悔することがよくわかる。

もう一つは「冬が来て食料が無くなり困っているキリギリスに、アリは『夏も歌って過ごしていたのだから、冬も歌えばいいんじゃない？』と言うと、キリギリスは『もう歌うべき歌はすべて歌った。君は僕の亡骸を食べて生き延びればいいよ』。後先を考えずに遊んでいるだけに見えたキリギリスだが、実はすべて見据えたうえで、生きている時間を命がけで楽しんでいた」というストーリー。今を楽しく生きること、幸せの尺度は個人によって異なるものである。人それぞれの生き方、多様性があることを示している。さて、あなたは、どの「アリとキリギリス」を選ぶか。

3月16日 校長 鈴木 幸雄

◆問題

1 2 3 4 5
— — — — — ...

4、 4、 4、 4、 4 分子が1から100まで、分母が4の分数があります。これらの分数をこれ以上約分できない分数まで約分したとき、分子が奇数の分数は何個ありますか。ただし、約分して整数となる数は除きます。